

令和2年度 決算概要について

令和3年9月27日

福島市水道局

令和2年度決算(対前年度決算比較)

(1) 収益的収入及び支出

(単位 円、税込)

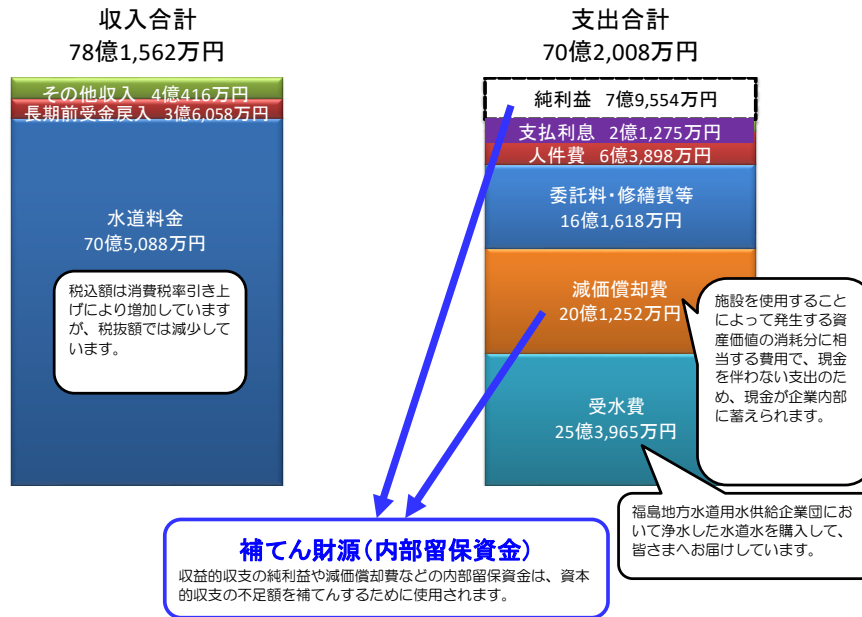
	区 分	2年度決算額	元年度決算額	比較増(△)減	増減率(%)	備 考
収 入	水 道 事 業 収 益	7,815,624,523	7,832,970,160	△ 17,345,637	△ 0.2	
	営 業 収 益	7,215,531,569	7,137,734,296	77,797,273	1.1	水道料金消費税改定(R元.10月、8%→10%)に伴う増
	営 業 外 収 益	599,283,933	606,553,181	△ 7,269,248	△ 1.2	新規メーター設置等の際に発生する水道加入金の減
	特 別 利 益	809,021	88,682,683	△ 87,873,662	△ 99.1	R元年度は原子力災害に伴う損害賠償金82,509,540円による特別利益あり
支 出	水 道 事 業 費 用	7,020,080,221	6,723,902,637	296,177,584	4.4	
	営 業 費 用	6,684,721,451	6,369,631,524	315,089,927	4.9	地震災害による修繕費、廃止施設解体費用(主に渡利第二取水口及びしのぶ台高架水槽の撤去工事)の増
	営 業 外 費 用	335,012,998	339,034,346	△ 4,021,348	△ 1.2	企業債支払利息の減
	特 別 損 失	345,772	15,236,767	△ 14,890,995	△ 97.7	R元年度: 台風19号による災害復旧費 R2年度: 福島県沖地震に伴う災害復旧費は営業費用から支出
税 込 当 年 度 純 利 益		795,544,302	1,109,067,523	△ 313,523,221	△ 28.3	
(参考) 税 抜 当 年 度 純 利 益		622,537,954	950,480,351	△ 327,942,397	△ 34.5	
うち補てん財源充当可能額		261,957,353	615,141,307	△ 353,183,954	△ 57.4	

(2) 資本的収入及び支出

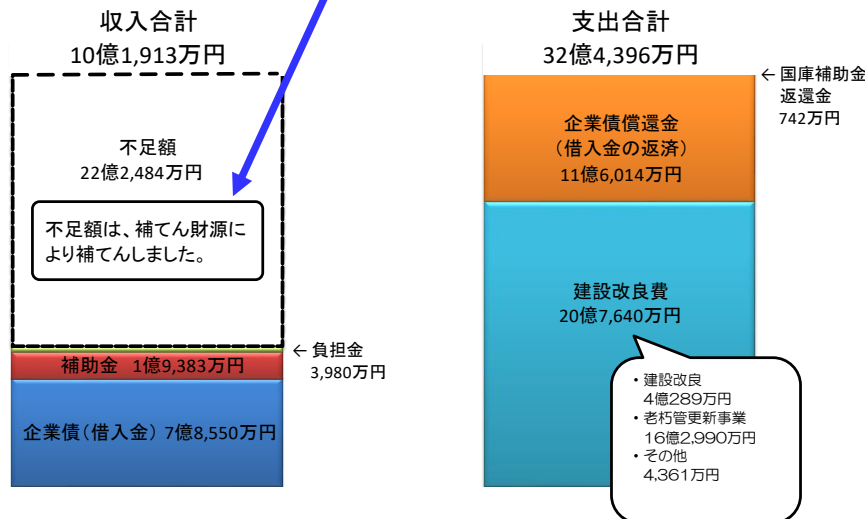
(単位 円、税込)

	区 分	2年度決算額	元年度決算額	比較増(△)減	増減率(%)	備 考
収 入	資 本 的 収 入	1,019,127,508	788,545,282	230,582,226	29.2	
	企 業 債	785,500,000	547,300,000	238,200,000	43.5	建設改良費に伴う企業債借入の増
	補 助 金	193,830,358	121,216,535	72,613,823	59.9	建設改良費に伴う国庫補助金の増
	負 担 金	39,797,150	120,028,747	△ 80,231,597	△ 66.8	工事負担金(下水道工事等)の減
支 出	資 本 的 支 出	3,243,962,687	3,265,320,605	△ 21,357,918	△ 0.7	
	建 設 改 良 費	2,076,400,501	2,073,189,179	3,211,322	0.2	
	企 業 債 償 還 金	1,160,142,447	1,178,650,227	△ 18,507,780	△ 1.6	
	国庫補助金返還金	7,419,739	13,481,199	△ 6,061,460	△ 45.0	税込で交付された国庫補助金の消費税相当額を返還
資 本 的 収 支 不 足 額		2,224,835,179	2,476,775,323	△ 251,940,144	△ 10.2	
補 て ん 額	過年度分損益勘定留保資金	1,655,600,936	1,876,603,393	△ 221,002,457	△ 11.8	
	減 債 積 立 金	400,000,000	400,000,000	0	0.0	
	繰 越 工 事 資 金	0	45,123,000	△ 45,123,000	皆減	
	当年度分消費税及び地方消費税 資 本 的 収 支 調 整 額	169,234,243	155,048,930	14,185,313	9.1	

《収益的収支》 水道料金などの収入と、水道水を購入し販売する経費や漏水の修繕費用などの支出



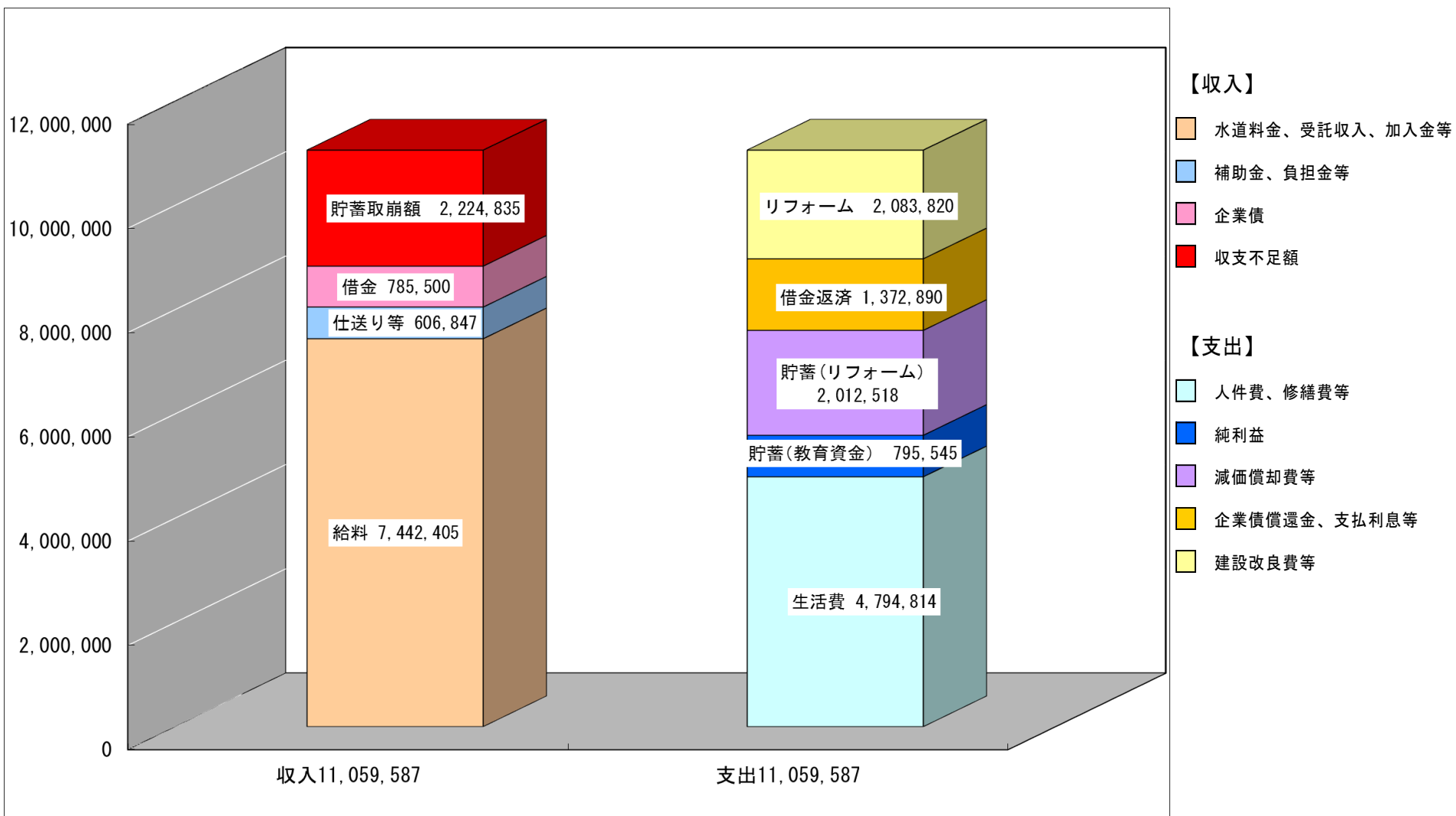
《資本的収支》 老朽管の更新など水道施設の建設・改良に関する収入と支出



資料2をご覧ください。

令和2年度決算 家計置き換えグラフ

(単位 千円、税込)



令和2年度決算について

令和2年度の決算は前年度比較において、新型コロナウイルスの影響を受け、料金収入が減少し、水道施設予防保全等に伴う修繕費及び廃止施設解体費用等の増加、福島県沖地震に伴う災害復旧費用の発生など支出が増加した結果、純利益は約3億2千万円の減となった。

審議中の第3期財政計画については、令和2年度決算を反映した数値となっており、料金収入の減収傾向が続き、修繕費を中心とした維持管理費が固定化して費用が増大する厳しい経営状態となるものと見込んでいるが、収支及び年度末繰越財源の状況から現行水道料金水準での事業運営が可能と判断したものである。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やワクチン接種の進捗状況により家庭や大口需要者の使用水量が増減することから、これらの状況を注視し、将来にわたり持続可能な水道事業の確立に努めていく。

業務実績表より

3. 現在給水人口 277,419人

前年度比較 1,055人の減

4. 給水戸数 127,861戸

前年度比較 455戸の増

9. 年間総配水量 30,149,814m³

前年度比較 176,765m³の増

11. 年間総有収水量 27,210,672m³

前年度比較 249,302m³の増

※有収水量とは、料金徴収の対象となった水量のこと。

※ 水道料金収入 6,410,419,697円
1,944,316円の減

16. 有収率 90.3%

前年度比較 0.3ポイントの向上

逆転現象

コロナ禍の影響
による逆転現象

給水人口と給水戸数の逆転現象について

少子高齢化等により人口が減少したことに加え、核家族化の進行による1世帯当たりの構成人数の減少や1人暮らしの世帯の増加が続いている。



基本料金と従量料金の割合の変化

(単位:円、税抜)

	令和2年度 (A)	令和元年度 (B)	比較増減 (A-B)
基本料金収入	2,724,329,225	2,710,283,475	14,045,750
従量料金収入	3,686,090,472	3,702,080,538	△ 15,990,066
合 計	6,410,419,697	6,412,364,013	△ 1,944,316

コロナ禍の影響について

(1) 段階別比較

水量料金 税抜	令和元年度	令和2年度	比較増減	増減率
第1段階 (1～10m ³ 、84円/1m ³)	12,230,622m ³	12,374,488m ³	143,866m ³	1.2%
第2段階 (11～20m ³ 、129円/1m ³)	6,272,428m ³	6,568,938m ³	296,510m ³	4.7%
第3段階 (21～50m ³ 、192円/1m ³)	3,352,576m ³	3,737,696m ³	285,120m ³	8.3%
第4段階 (50m ³ 以上、247円/1m ³)	4,951,200m ³	4,477,620m ³	△473,580m ³	△9.6%

※1～3段階の水量は増加しているが、料金単価が高い4段階（旅館や飲食店など）の使用水量が落ち込んでいる。

コロナ禍の影響について(業態別比較)

(2) 業態別比較

(単位: m³、円、税抜)

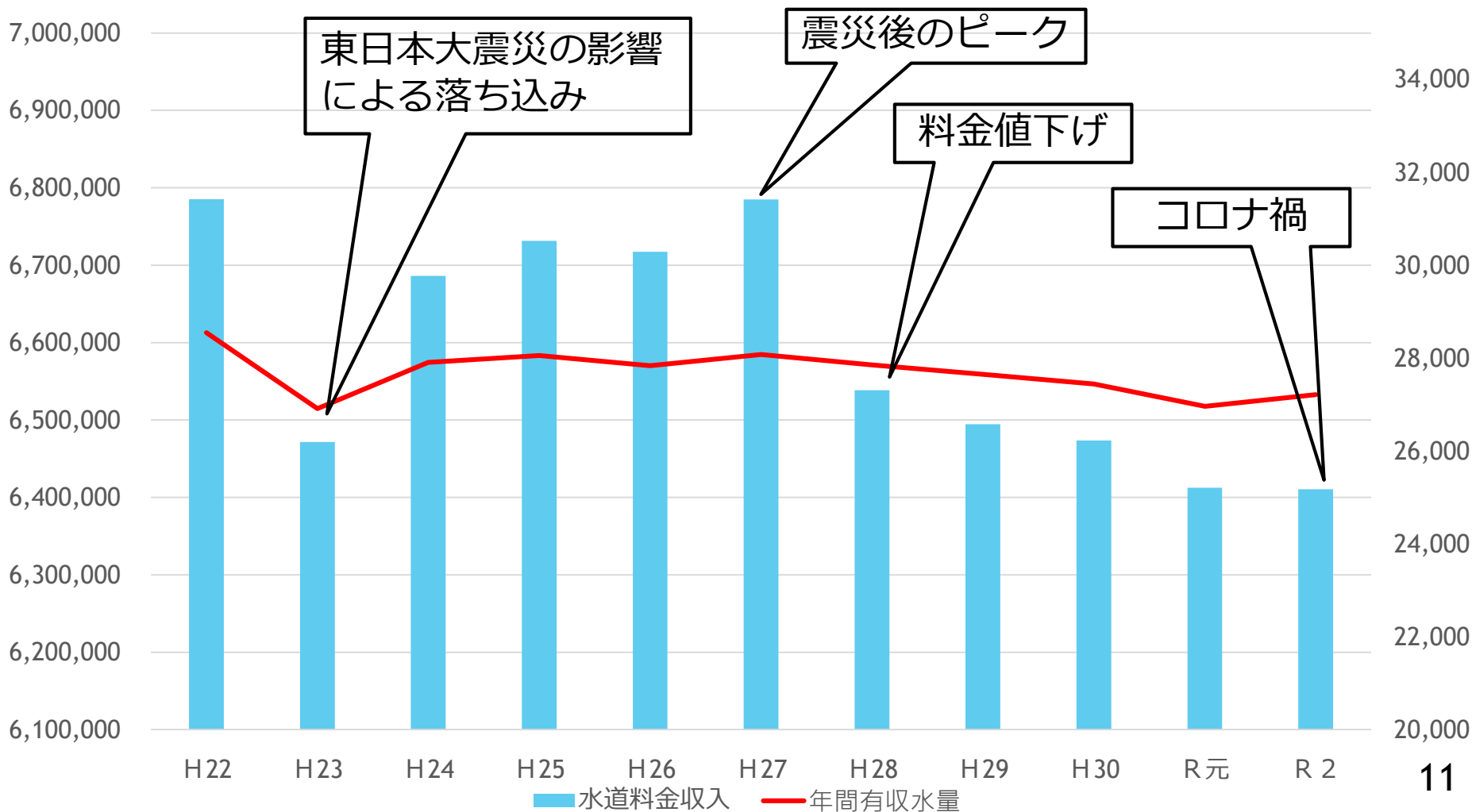
年 度 別 業 態 別	実 績				比較増減			
	令和元年度		令和2年度					
	水量	水道料金	水量	水道料金	水量	対比	水道料金	対比
家 庭	20,053,912	4,571,011,547	20,853,294	4,707,422,470	799,382	4.0	136,410,923	3.0
学 校	542,936	159,317,450	493,804	147,822,367	△49,132	△9.0	△11,495,083	△7.2
官公及び公共施設	786,812	233,896,038	724,310	215,201,603	△62,502	△7.9	△18,694,435	△8.0
会社・事務所	649,636	199,967,348	651,526	199,869,657	1,890	0.3	△97,691	0.0
製造業	779,904	196,894,827	735,048	186,988,077	△44,856	△5.8	△9,906,750	△5.0
卸・小売業	554,386	147,406,100	503,594	135,783,454	△50,792	△9.2	△11,622,646	△7.9
サービス業	2,450,610	617,973,534	2,182,594	551,326,143	△268,016	△10.9	△66,647,391	△10.8
病 院	718,900	184,329,033	717,444	182,028,341	△1,456	△0.2	△2,300,692	△1.2
多目的ビル	352,576	92,900,294	275,866	74,565,039	△76,710	△21.8	△18,335,255	△19.7
その他	65,642	8,667,842	67,054	9,412,546	1,412	2.2	744,704	7.9
合 計	26,955,314	6,412,364,013	27,204,534	6,410,419,697	249,220	0.9	△1,944,316	0.0

水道料金収入の減少

水道料金収入・年間有収水量比較

(単位 千円)

(単位 千m³)



重点事業

・老朽管更新事業 約16億2,989万円

年度	更新延長(目標)	更新延長(実績)	総延長距離	更新率
平成28年度	6,109.0m	5,637.0m	1,607,665.71	0.35%
平成29年度	8,728.0m	6,709.5m	1,616,475.11	0.41%
平成30年度	11,176.0m	7,657.3m	1,619,796.36	0.47%
令和元年度	13,835.0m	8,923.9m	1,627,654.96	0.55%
令和2年度	16,361.0m	8,185.9m	1,636,160.16	0.50%
5年間合計	56,209.0m	37,113.6m	1,636,160.16	2.27%

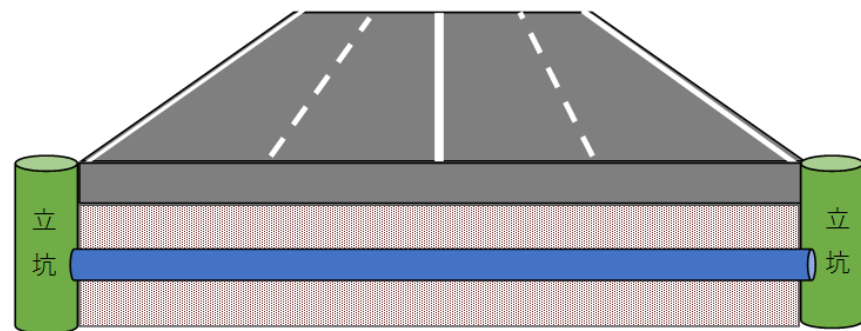
※目標達成率66.03%



推進工事・橋梁添架管工事とは

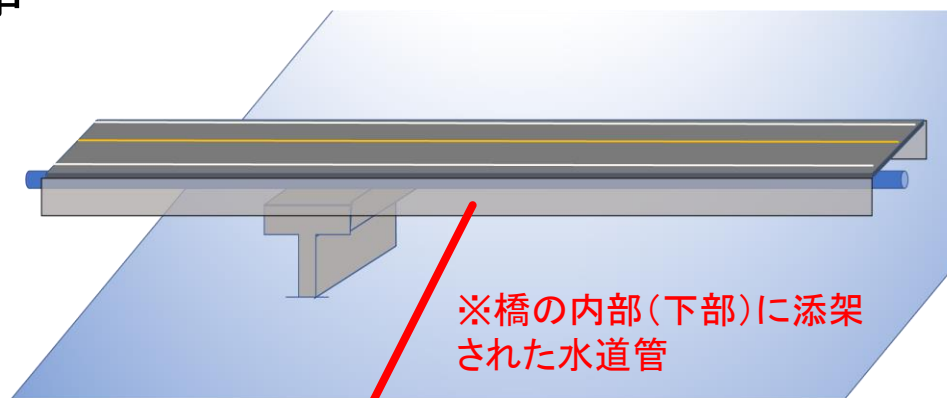
・推進工事

交通量の多い国道敷、JRの軌道敷などは、通行止めにしての道路開削工事が難しいことから、立坑を掘り、その中から反対側の立坑まで、地中を推進する方法で水道管等を通すため、工事費が高額となる。

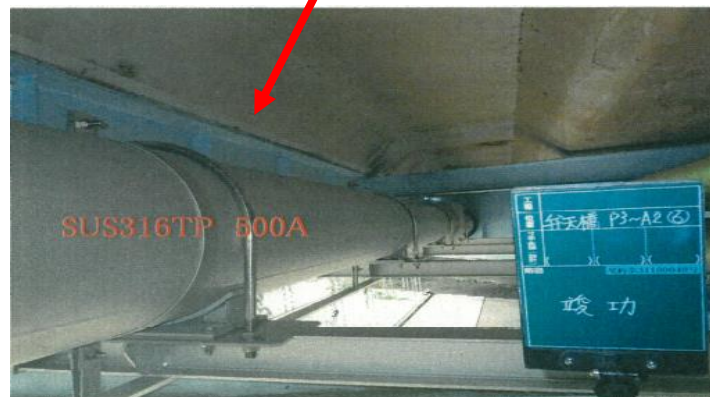


・橋梁添架管工事

水道管を河川横断させるため、河川工事に該当し、非出水期(11月～5月)のみしか施工できない。また、道路橋などに管を這わせて設置することから、特注の管を使用し、足場を組んで工事するため、工事費が高額となる。



※橋の内部(下部)に添架された水道管



福島県沖地震に伴う災害復旧について

1.災害復旧費用 約1億9,650万円

- ・令和2年度分 6,150万円
- ・令和3年度への繰越分 1億610万円
- ・令和3年度分 2,890万円

2.被害状況

空気弁修繕 24件 配水管修繕 11件 給水管修繕 16件
緊急遮断弁稼働 5件(市内設置箇所14箇所)

3.断水状況

断水戸数 110戸

断水箇所 蓬萊地区、御山地区、飯坂地区等



翌日午後6時には全戸断水復旧

(参考)

東日本大震災の状況

- ・断水戸数 111,779戸
- ・断水箇所 福島市全域
- ・復旧日数 12日間

4.応急復旧

基幹管路の耐震適合率が91.4%と全国平均40.9%を大きく上回る整備を行ってきた結果、福島県沖地震に伴う被災規模は東日本大震災時と比較し、限定的な被害及び範囲に留まった。

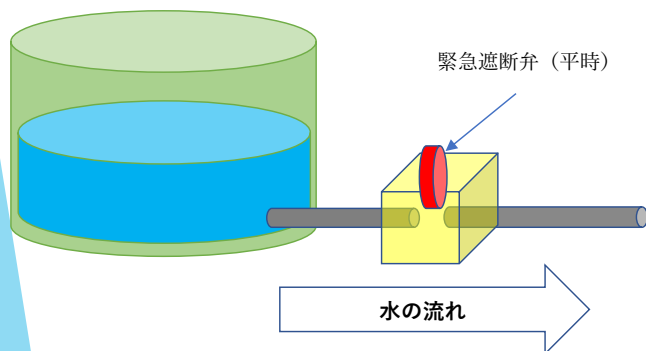
被災箇所への修繕については、連携を強化してきた福島地区管工事協同組合と協力し、迅速な復旧工事を行い早期の断水解消が可能となった。

※緊急遮断弁とは・・・配水池の配水量が漏水などにより著しく増加した場合、配水池の水量を確保するため配水を遮断する弁が作動する。

現在14箇所設置、今回の地震においては5箇所の緊急遮断弁が作動し水を確保した。

緊急遮断弁による水の確保のイメージ

通常時



漏水時

